

第5回宇治市地域コミュニティ推進検討委員会 発言の要旨

日 時 平成26年6月26日(木) 18:30~20:30
場 所 市役所8階大会議室
出席者 森委員長ほか委員13名

発言の要旨

【メリット・デメリット論と向こう3軒両隣】

かつては、未加入者に不自由をさせるといった意見を持っていたが、加入するメリット、安心感があるということ工夫して伝えていく必要がある。

地域でメリット・デメリットの議論はしていない。向こう3軒両隣でのコミュニケーションを深める呼びかけや高齢者への配慮が必要である。

メリット・デメリット論だけでは加入促進は難しいというところへ、委員会の議論が至っている。

【開発業者への指導】

転入者に対する加入促進対策としては、開発業者への指導が効果的であると考えられる。

【孤立者について】

地域課題として、社会的な孤立者が多い。自治会としてできることに限りがあるが、行政の役割として考えられることはないか。

孤立者の問題については、地域コミュニティ活性化という文脈の中で取り扱うことは難しいが、福祉部局との連携などとして提言に書き込むことが望ましい。

【防災の取り組みから学区福祉・民生児童委員との連携】

地域の防災への取り組みでは、町内会・自治会と学区福祉・民生児童委員が連携している実例がある。

連携の効果によって、より踏み込んだ活動が可能となっている。

地域の防災への取り組みが、加入促進につながっている。

【新任会長研修】

年度当初に基本的な講習・研修を実施してはどうか。

研修については、今後の議論の課題とする。

【町内会・自治会の位置付け】

提言の冒頭では、町内会・自治会の位置付けを記載する必要がある。その内容は、提言骨子の中で確認していく。

【町内会・自治会以外の役員のなり手不足】

役員のなり手不足は、町内会・自治会だけではなく育友会でも同じような状況が見られる。

【地域コーディネーター】

滋賀県で実施例あり。試行錯誤されている。

行政が各地区に置くというようなことを制度化すれば、かなり画期的。制度的にはかなり難しい部分があるが、試みとしてはあり得る。

【学校教育・社会教育との連携】

市民教育、つまり市民として一人一人がどんな役割を果たすべきかという教育が、日本では非常に立ち遅れていると言われている。

食育のように、地域との活動についても、幼いころからその重要性、自分が地域の担い手だという意識を持ってもらうような教育をしていかないといけないというようなことを提言の中にきちんと書き込めば、それを担当する部局に受けとめられる。

【地域連携ネットワーク】

地域連携ネットワークの議論を先に進めるべきではないか。ネットワークの議論によっては、先に進めた自治会についての議論が変わりえる。

うまくピラミッド型の組織ができるのか、あるいはもう少し個別のネットワークのようなものにするのが現実的なのかというのは、なかなか難しい課題。

難しいというのはできるかどうかではなく、実際に効果が得られるのかということ。実質的な仕組みを議論したほうがいい。

行政もそうだが、色々な横串が入らない。公民館に行けばそこで全て話がつくというような体制づくりをしたらどうか。

「公民館に行けばそこで全て話がつくというような体制づくり」という意見は、地域コーディネーターのような人がいて、そこで振り分けてくれるというのがイメージ的には近い。